

令和 8 年度 研究の概要

1 研究主題

主体的に考え、表現し、学び合う子どもの育成
～ 「分かる」「できる」喜びを実感するでとっこ学習を通して ～

2 主題設定の理由

(1) 昨年度の成果と課題から

本校では、令和 5 年度より、研究主題を「主体的に考え、表現し、学び合う子どもの育成～「分かる」「できる」喜びを実感するでとっこ学習を通して～」とし、子どもたちの学ぶ意欲を高め、「分かる」「できる」喜びを実感させていきたいと考え、授業改善に取り組んできた。

昨年度は、課題との「**で**あい」の工夫と、友達と学び合う場の「**つ**ながる」の段階に加え、次へつながる「**こ**んなに」の振り返りの場も研究の重点に位置付けた。学び合いの場を重視した授業づくりや、再思考の場を位置付け評価の工夫を心掛けたことで、児童アンケートの「授業に進んで参加している」「授業が楽しい」「授業が分かる」の割合が向上した。

しかし、意欲の高まりが各種調査結果に結びついていないことから、より確実な学びの習得を目指していく必要があると考える。高まってきた意欲をどう「分かる」「できる」につなげていくかが課題である。

(2) 今年度の目指す方向

学び合いを位置付けた授業を実践は、子どもが授業に進んで参加する意欲だけではなく、教師が子どもの意見をどう採り上げるのかを意識して授業づくりをする姿にもつながった。実践を通して、学び合いの場で子どもの言葉をつなげていくことや、子どもの意見を引き出す発問に課題が見られた。また、学びの定着が不十分な点にも課題が見られた。そこで今年度は、学び合いの充実と学びの定着を目指し、「でとっこ学習」の **つ**と**こ** の段階を重視する。

つの段階は、授業のねらいを達成するために必要な学び合いでなければならない。そのために何を学び合うのか、学び合いでどのような姿を期待するのか、目的を明確にして場を設定する。根拠をもって伝え合う姿や相手の意図を捉えながら聞く姿など、具体的に子どもの姿をイメージすることで、発問や場の設定などを工夫した授業作りにつながると考える。

この段階では、子ども自身が自分の学びを自覚しなければならない。そのためには、どこで、何を、どんな方法で振り返るのか、ねらいを明確にして行う必要がある。子どもに付けさせたい力を意識した授業の積み重ねが学力の定着につながっていくと考える。

今年度も教師が自分の得意を生かし、「でとっこ学習」を意識した授業改善に取り組むことができるよう、特に重点教科を決めず全教科・領域での実践とする。学び合いの質を高め、更に充実を図り、目的をもって評価や振り返りの場を設定することで、「分かる」「できる」を実感して主体的に学び続ける子どもの姿につながると考え、授業改善に取り組む。

3 目指す子どもの姿

○ 「分かる」「できる」を実感し、主体的に学び続ける子ども

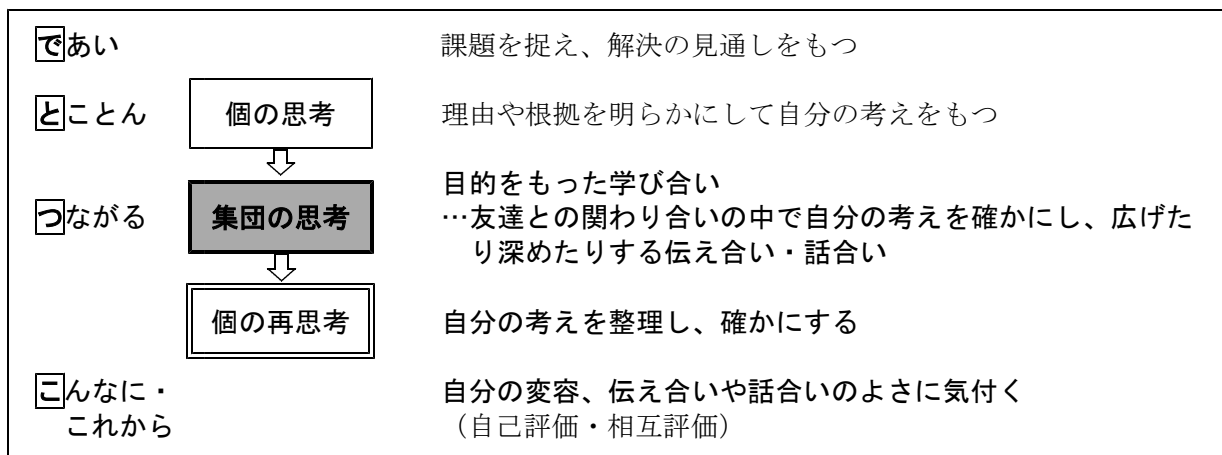
〈具体的な姿〉

- ・ 明確な目的意識や興味・関心をもって、自ら進んで課題に取り組んでいる。
- ・ 課題解決のために、自ら学び方を選択して(自分で考える、友達や先生に聞く、話し合う 等) 粘り強く課題に取り組んでいる。
- ・ 理由や根拠を明らかにして、自分の考えを表現している。
- ・ 学び合いを通して深まった知識を生かして、自分の考えを修正したり深めたりしている。
- ・ 学習に対する成就感や自身の変容を自覚し、次の学習や生活に生かそうとしている。

4 研究の仮説

- 「でとっこ学習」を意識した授業実践を通して、目的を明確にした学び合いにより話す・聞く力を育て、評価や振り返りにより現状や変容の自覚化を図ることによって、自己の成長を実感し次の学びに向かおうとする意欲につながるのではないか。

5 「でとっこ学習」の取り組みと研究の重点◎



* 伝え合い…相手意識をもって自分の思いや考えを根拠を明確にして話したり、友達の思いや考えを聞いて理解したりする双方向の言語活動

* 話し合い……互いの考えや思いを伝え合い、集団で課題を分析したり、吟味したりする言語活動
対話や会話、会議、討論、討議など、教科や領域によって形態が異なる。

【討論型】：互いに根拠のある意見を出し合い、真理を追究する話し合い

【対話型】：互いの課題意識を認め、意見を聞く話し合い

【討議型】：自分たちの生活から問題を見付け、よりよい結論を出す話し合い

○ 「【で】あい」段階の充実

- ・ 子どもの興味・関心を引く課題を提示する。(内容の工夫・提示の工夫)
- ・ 見通しをもつ場を工夫する。
(何が分かるのか 何を求めるのか 何を考えるのか 既習を生かせるのか)

○ 「【と】ことん」段階の充実

- ・ 実態把握に基づいた個への支援を準備する。
- ・ 困り感を共有する場を設ける。
- ・ 発表を意識した考えのまとめ方を提示する。

◎「**つ**ながる」段階の充実

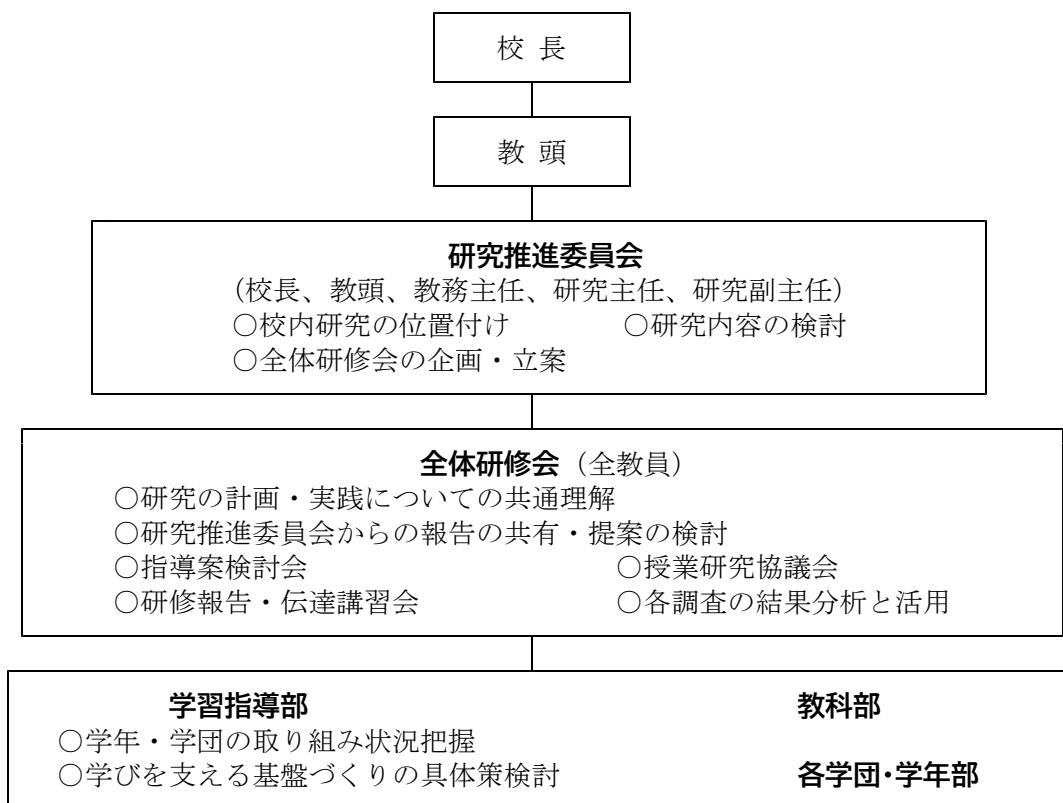
- ・話合いの目的を明確にする。
- ・話し合う子どもの姿をイメージし、期待する姿につながる発問や場の組み立てを工夫する。
- ・学びを整理し、価値付けを図る。
(何が分かったのか どこまで理解できるのか 何が分からないのか どの考えがなぜよかったのか どの考えで深まったのか)

◎「**こ**んなに・これから」段階の充実

- ・授業のねらいに応じて、評価・振り返りの内容や位置付けを工夫する。
- ・自分の変容を自覚できるような振り返りを工夫する。
(学習前と比べて何が分かったのか どんな力が付いたのか 何が分からないのか)

6 研究の進め方

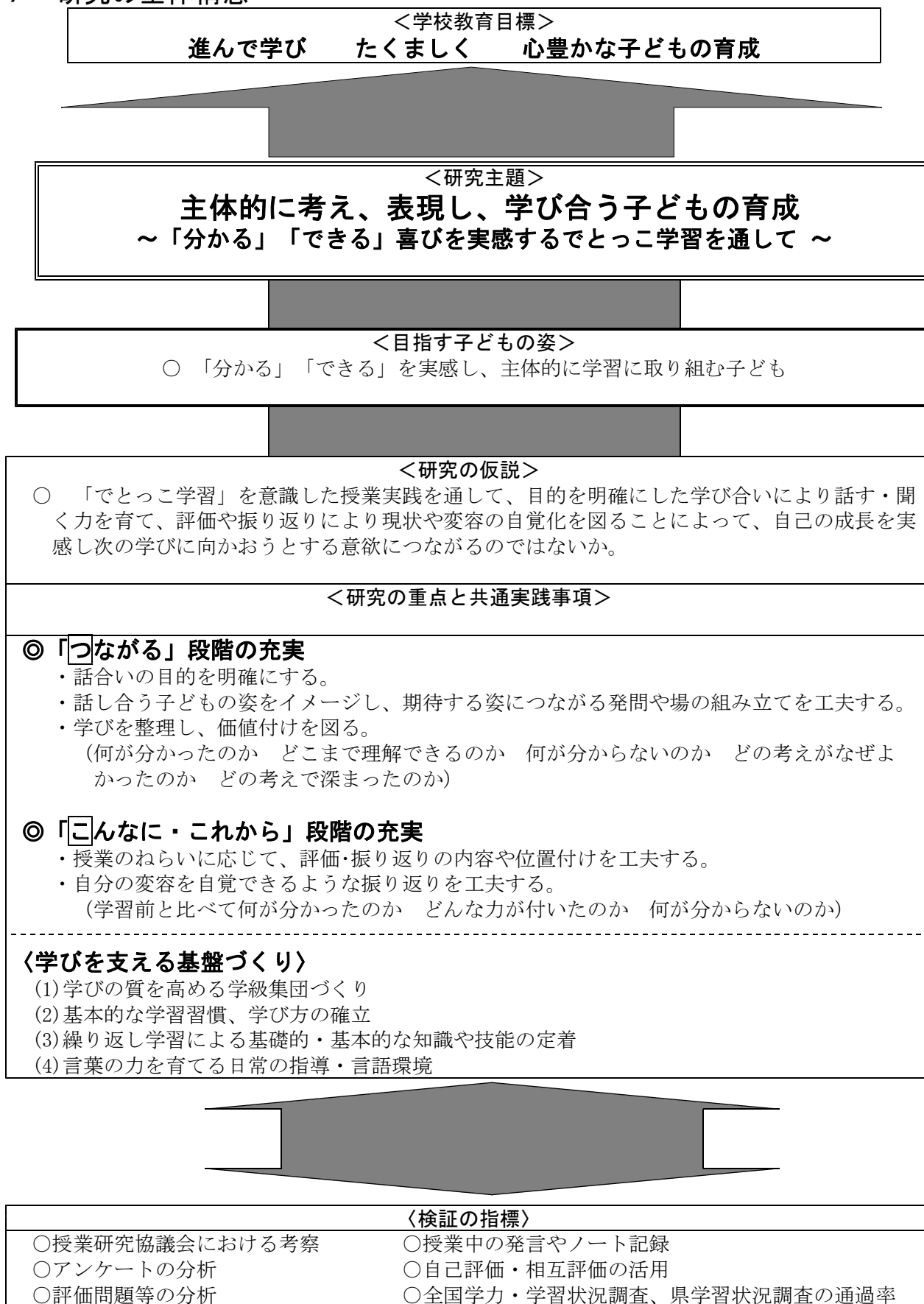
(1) 研究組織



(2) 研究推進の方法

- ① 研究全体の計画立案
 - ・研究計画の検討
 - ・授業研究会、全体研修会の企画運営
- ② 研究実践の計画
 - ・各学級で一度ずつ、授業提示をすることを原則とする。
 - ・研究の重点を理解し、目指す子どもの姿の実現のために授業改善に取り組む。
- ③ 各教育機関との連携
 - ・就学前教育（出戸こども園）
 - ・小中連携（天王南中学校区三校）
 - ・県市連携（県総合教育センター）
- ④ 子ども一人一人の意識変容を基にした成果と課題の把握
- ⑤ 教育課程や研究会参加の研修計画の作成

7 研究の全体構想

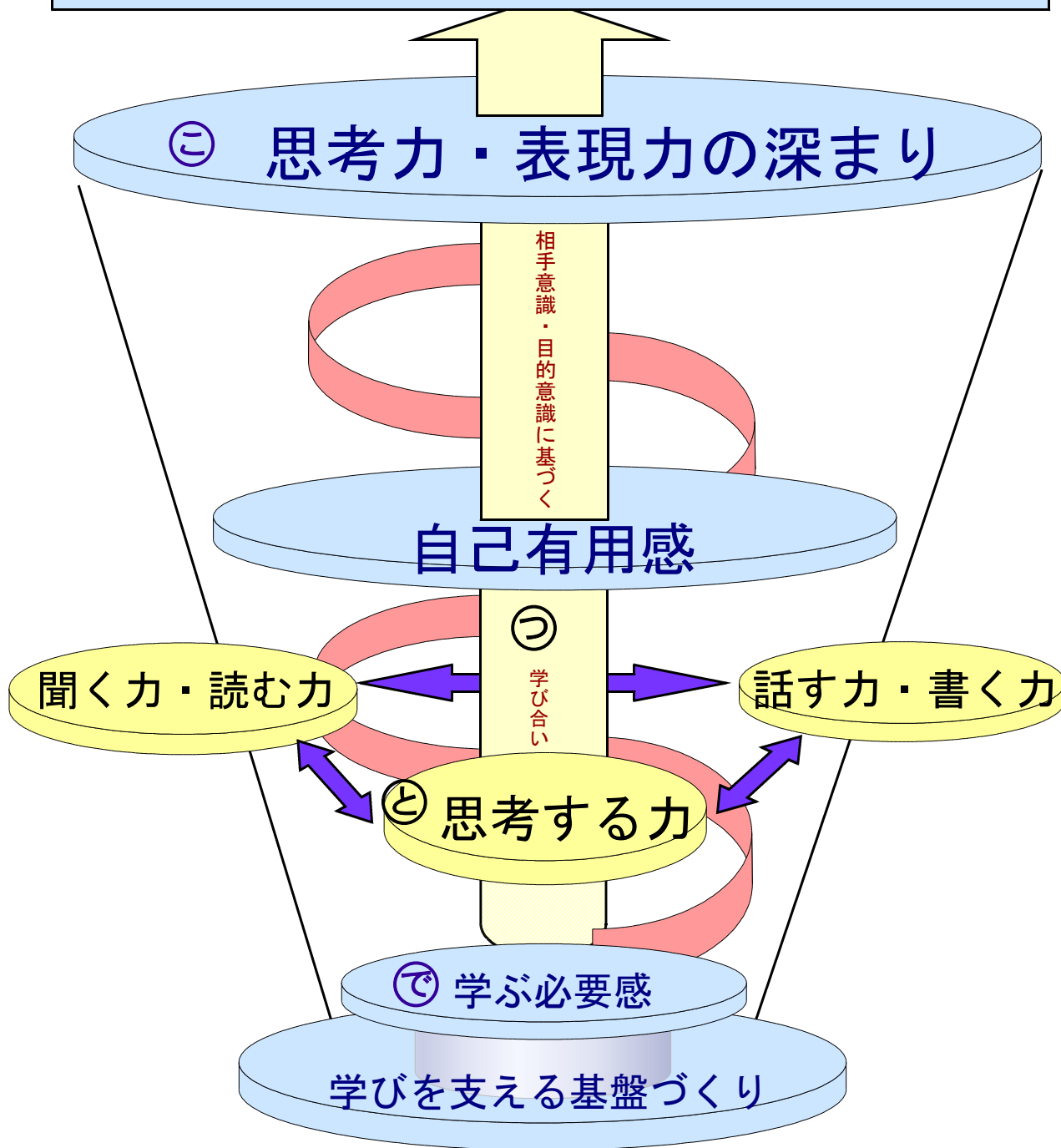


8 研究構造図

研究主題

主体的に考え、表現し、学び合う子どもの育成
～「分かる」「できる」喜びを実感するでとっこ学習を通して～

・「分かる」「できる」を実感し、主体的に学ぶ子ども



9 研究・研修計画

月	校内研修	授業研究会等
4	* 研究の方向性についての確認・目指す子ども像の明確化	
	○共通実践事項の確認 ○児童の実態把握① (学習習慣の定着度) ○全国学力・学習状況調査の実施 (6年) ○知能検査(2年)の実施 ○I チェック総合質問紙調査の実施 (5年生)	
5	○研究計画作成	
	○学年部の目指す子ども像、方策の検討	
6	○児童の実態把握② …学習アンケート① (学習内容や学習習慣の定着度)	○授業研究会①6/24 (2年1組 算数)
7	○教師の指導に関する自己評価① ○研修会(教育相談)	○授業研究会②7/16 (5年1組 道徳)
8	* 前期前半までの取組の評価	
	○成果と課題の共通理解・具体的な 方策の検討 ○研究・研修計画の修正 ○全校チャレンジテスト①の実施	
9		○中央教育事務所長訪問 ○授業研究会③教科等訪問 (6年1組 道徳)
10		
11		○授業研究会④要請訪問 (4組 特別支援教育) ○授業研究会⑤11/25 (4年1組 国語)
12	* 後期前半までの取組の評価	
	○成果と課題の共通理解 ○後期後半の取組の見直し ○県学習状況調査 ○児童の実態把握③ …学習アンケート② (学習内容や学習習慣の定着度) ○ 教師の指導に関する自己評価②	○授業研究会⑥12/11 (1年1組 算数)
1	○県学習状況調査結果の課題改善のための指導	
	○全校チャレンジテスト②の実施	
2	○今年度の成果と課題の共通理解	
3	○次年度の研究の方向性確認	

学習指導部会(毎月定例)

日常の授業実践

Plan

Do

Check

Action
→Plan

Do

Check

Action

Check

10 「でとっこ学習」

〈でとっこ学習の各段階〉

〈子どもの学びの姿〉

〈授業のチェックポイント〉

魅力的な課題との

「**で**あい」

- ・ 学ぶ意欲や必要感を感じることができるようなスタートの演出
- ・ 学習のイメージの共有（教師と子ども）

やってみたい。
なぜだろう。
こんな力が付きそうだ。
～の学習が生かせそうだ。

- 年間指導計画に基づき、付けたい力が絞られた計画か。
- 学習環境の準備は適切か。
- 追究の価値のある課題であるか。
- 課題の意味が伝わるような提示方法が準備されているか。
- 子どもに解決への意欲をもたせているか。

自力解決の場の

「**と**ことん」

- ・ 全体と個の課題
- ・ 子どもの自己評価と教師評価を生かした学習と支援
- ・ 課題意識や学ぶ力に合ったコース設定

こんな方法はどうかな。
このヒントを生かしてみよう。
自分には～がよさそうだ。
他の方法を考えてみよう。
足りないのは～かもしれない。

- 実態把握に基づく適切な学習形態の下、子どもの気付きや考えを生かしているか。
- 既習事項や図・表などを活用し、多様な考えを引き出しているか。
- 個々の学習状況を適切に把握し、支援しているか。
- 板書や発問は適切か。

友達と学び合う場の

「**つ**ながる」

- ・ 学習集団や場の柔軟な編成
- ・ 学習経験を生かしたゴールづくり
（自分の学習が生かされている実感）
- ・ 確かな学力の定着

友達はどんな考えだろう。
自分の考えを伝えよう。
友達の考え（方法）が生かせそうだ。
別の方法でも解決できる。
そういう考えもあるのか。
なるほど。分かった。その方法で解いてみよう。

- 子どもが伝え合い、話し合いを通して考えを深めているか。
- 学習形態、発問や指示は適切か。
- 本単元・本時のねらいに沿って、学習内容を分かりやすくまとめているか。
- 評価問題を実施するなど、学習内容の定着を確認しているか。
- 子どもの学習意欲は持続されているか。

次へつながる

「**こ**んなに・これから」

- ・ 子どもが学習を振り返り、生かす力
（基礎となる学力が身に付いた、この力を生かせそうだという実感や意欲）

学習してよかった。
ためになった。分かった。
～の力がついた。
これから生かせそうだ。
もっと～してみたい。
自分で～してみたい。
他にないか。

- 学習に対する成就感や満足感、自己有用感をもたせているか。
- これからの学習や生活、他の教科等に生かせる方法を身に付けさせ、次への期待感をもたせているか。
- 指導の成果や課題を絞り、次時や次単元の指導計画を改善しているか。